

す

く

す

く

15号



東京都済生会中央病院附属乳児院 2021年度 第2号 2021. 7. 1 発行

東京都済生会中央病院附属乳児院 院長 小寺 政明

梅雨の晴れ間には夏を感じる季節になりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。4月より当院のチームに加わった新人保育士たちは、養育の現場で毎日楽しく奮闘中です。そしていよいよ夜勤シフトが始まります。子どもたちと夜の時間を一緒に過ごすことで互いの関係性が一層深まっていくことでしょう。子どもたちと職員が共に成長できるとしたら、それはそれは素敵なことではないでしょうか。

さて、今年度より港区のショートステイ事業がスタートしました。少しずつですが利用される方が増え、2回目、3回目とご予約を頂くことで私どもも手ごたえを感じているところです。コロナ禍のなか人々の生活や子育てを取り巻く環境が大きく変わりました。少しでも地域の皆様のお役に立てるよう尽力してまいります。

乳児院の活動に日頃よりご理解とご支援を頂いている関係者の皆様には深く感謝申し上げます。今後とも子どもたちへのご支援をよろしくお願いいたします。

副院長 石田 晃代

理 念

「済生の精神」に基づいた思いやりのある養育の提供を通じて社会に貢献します。
 (「済生の精神」とは、分け隔てなくあらゆる人々に医療・福祉を差し伸べることです)

基 本 方 針

「子どもニーズ 子どもファースト」

私たちは、常に子どものことを第一に考え、子どもの目線に立ち、
 子どもの気持ちの代弁者として実践し、一人ひとりの子どもの最善の利益を追求していきます。

1. 子どもが安心できる環境の中で、個性を尊重し、愛情を注いで養育します。
2. 愛着関係を大切に、情緒豊かな子どもに育てていきます。
3. 感動や成功体験を通し、子どもの自立心を養っていきます。
4. 子どもの成長の喜びを保護者と共有し、親子関係を大切にしながら養育します。
5. 乳児院職員として、向上心や探究心を持ち、人間性・専門性を高めていきます。



みんなで眺める東京タワー



木の葉や枝でお料理中



こいのぼり会

5月11日、こいのぼり会を行いました。

子どもたちはオシャレ着に着替え“さんぽ”の歌に合わせて入場し、名前を呼ばれた子は元気よくお返事をして、初節句のお祝いをしました。パラバルーンの大きなこいのぼりには怖がる子もいましたが、“アンパンマンマーチ”のメロディに合わせて動くパラバルーンの布を目で追ひ、楽しむことができました。そして、“アンパンマン体操”を元気よく踊った後は、落ち着いた雰囲気の中“こいのぼり”を歌いました。最後に五月人形の前で写真撮影をして、お部屋でおやつをたくさん食べました。

終始緊張している子やたくさん反応を示す子など、子どもたちの様々な反応を見ることができたこいのぼり会となりました。

保育士 亀井 雪萌



初めて見る五月人形に興味津々！



パラバルーンのカラフルな布に
子どもたちは大喜び！



こいのぼり製作を行い、
菖蒲湯に入りました！

ナースコラム～熱中症に気をつけよう～



夏の暑さで心配なのが熱中症ですね。子どもは大人より体温調整機能が未熟で、地面からの照り返しの影響を受けやすいことから、熱中症になりやすいです。また、遊びに夢中になると異常に気付かず、子ども自身で予防するのが難しいため、注意が必要です。

予防 1. こまめに水分を摂ろう

喉が渴いたと思った時にはもう脱水なので、喉が渴いていなくても意識して水分を摂りましょう。

予防 2. 日陰や室内で休憩し、適度にクーラーを使おう

高温多湿の環境に長時間いると、多量に発汗する上、汗の蒸発が妨げられ、体温上昇に繋がります。

予防 3. 暑さと共に異常を感じたらすぐに受診しよう

熱中症は命に関わります。異常を感じたら涼しい環境で冷却し、水分塩分を摂り、迷わず受診しましょう。

看護師 佐藤 沙紀



新入職員紹介

保育士 7 名、看護師 2 名、補助員 1 名が新たに
乳児院のスタッフとして加わりました。

子どもたちの気持ちに寄り添い
子どもたちが愛情をいっぱい感じて
安心して元気に過ごせる環境を
作れるよう頑張ります。



日常の様子

乳児室と幼児室(Aホーム・Bホーム)の子どもたちの日々のエピソードをお届けします。

乳児室



先日、1 番月齢が小さい赤ちゃんの首がすわり、乳児室の赤ちゃん全員で散歩に行けるようになりました。居室のテラスから景色を眺めるのも楽しいですが、ベビーカーに乗って外に出かけると、大きな自動車、横断歩道や救急車の音、地面や葉っぱの感触など、たくさんの新しい出会いが待っています。不思議さと真剣さが混じった子どもたちの表情を見ていると、大人も一緒に冒険をしているようでわくわくしてきます。

A ホーム

Aちゃんはお友達と遊ぶことが大好きで、お友達が離れて行ってしまおうと「行っちゃった。」と泣いて追いかけることがあります。大人から見ると可愛らしい姿なのですが、本人は必死です。そこで、「〇〇ちゃんはあるちで遊びたいんだって。戻ってくるまで遊んで待てよう。」と提案すると、「うん！」と頷き、気持ちを切り替えて遊ぶことができました。しばらくしてお友達が戻ってくると、嬉しそうに笑ってまた一緒に遊び始めていました。



B ホーム

Bちゃんはホームの中で1 番月齢が大きく、お姉さんのような存在です。ある時、Cちゃんが眠くなり始め目をこすっていると、BちゃんはCちゃんの隣へ座り「ねんね？」と頭を撫でてあげていました。大人が寝かしつけの際に、頭を撫でたり背中をさすったりしている様子を真似てお手伝いをしてきているようでした。その姿はまるで姉妹のようで微笑ましく、また、子どもの成長を感じることができ嬉しく思いました。





心理士だより～大人はマスクをしているけれど～

少なくともこの 1 年以上、乳児院では大人が必ずマスクをしています。眼鏡もかけています。ユニフォームも靴下まで含めおそろいです。感染予防のためです。気になるのは、子どもたちに相手の区別ができるのか、ごはんを食べる時のモグモグ、という口の動き、お話をする時マンマ、タンタンなど唇や舌を使うこと、嬉しい、嫌だな、と感じる時の顔の表情、それらが果たしてどのように伝わっているのか、いないのか、ということです。

そんな中でも、子どもたちは、初めての大人を見ると動きが止まったり、月齢によっては人見知りの泣き声をあげたり、笑顔を向けると笑顔でこたえたりしています。4 月に大勢の新入職員が加わり、大人同士は背格好が似ている者を混同し、お互い、名前を覚えるのに苦労しますが、子どもたちの方が先に見分けをつけているように思います。大人は頭で理解し記憶しようと必死ですが、子どもたちは、人それぞれに特有の雰囲気、動きのスピード、声の質や抑揚、そして目の表情などをしっかり感じてとらえているようなのです。

そうであれば、マスクで顔の一部が隠れていることを心配するばかりでなく、その他の部分や体全体、存在のすべてで表現し、伝えていけばいいのかな、そんなことを教えられたように思います。もちろん、映像や描いたもので顔の全体、口やお鼻や表情に触れる機会を心がけてもちたいものです。乳児院にはお友達がたくさんいて、まだマスクをつけられる年齢でないことが、伝え合いには良かったように思います。

臨床心理士 柴田 薫



ショートステイ事業紹介



新しい乳児院に移って半年が経ち、この 4 月から「ショートステイ事業」が始まりました。ショートステイ事業とは、国の子育て支援事業のひとつです。当院では、生後 5 日の新生児期から 10 ヶ月までを対象に、地域(港区)で生活するお子さんを短期宿泊でお預かりしています。冠婚葬祭や通院、出産、介護、そして短期休養などの際に利用できます。

乳児院は、保育士・看護師・心理士・栄養士など、子どもと家族に関わる専門職が集まる施設です。さまざまな職種が連携して、お子さんの成長に合った遊びや食事、安全な環境の提供を、ショートステイ事業でも行っています。

地域の子育てに貢献できるよう活動を進めていきますので、よろしくお願いいたします。

ショートステイプロジェクトメンバー 石井 悠子



【0～3 歳児の育児にお困りの方へ】当院では育児相談を平日 9～16 時に受け付けています。

詳しくは下記までご連絡ください。Tel 03-3451-8289(直通) 担当 小泉看護師長代理

【寄付金について】当院では子どもたちの養育環境整備のため寄付金を募っています。

詳しくは下記までご連絡ください。Tel 03-3451-8289(直通) 担当 事務 竹田

【編集後記】

だんだん暑い日が多くなってきました。夏の訪れを感じながら、子どもたちと毎日楽しく過ごしたいです。

「すくすく 第 75 号」2021. 7.1 発行

発行人／小寺 政明 編集委員／小泉 菜穂子
赤穂 真由美 宮野 由貴 栗野 桃子